第Ⅳ部門　　選奨土木遺産の活用に関する一考察

シビル・ベテランズ＆ボランティアズ(CVV)
名誉会員　○南荘　淳，フェロー　今岡亮司，フェロー　栗田秀明，清水文夫，武内隆文

１．まえがき

CVV は，土木分野のシニア技術者が社会貢献を目指して継続的に活動している団体であるが，その活動の一環として，2020 年より関西地区の選奨土木遺産に着目し，その有効活用を図ることを目的に調査を行っている．４年間の活動を通して分かってきた，選奨土木遺産の現状と活用に関して考察する．

２．関西地域の選奨土木遺産に関する自主調査

CVV では，これまでも会員を対象とした関西地域の土木施設の見学会を実施してきたが，2020 年からは下記に示すように，関西地域の選奨土木遺産の現状を把握するため，現地調査と事前・事後の資料調査を行ってきた．

調査に当たっては，各構造物の諸元を調べるだけでなく，その沿革や歴史的背景，選奨土木遺産認定に至った社会的・文化的価値についても，広く関連文献を収集して紹介することに努めた．

・2020 年度　京都市内選奨土木遺産（阪急大宮駅，琵琶湖疏水の発電施設群，七条大橋，堀川第一橋，賀茂川・鴨川河川構造物群）
・2021 年度　角倉了以の偉業と三栖閘門（保津川，高瀬川，三栖閘門他）
・2022 年度　湊川隧道ほか土木遺産（和田旋回橋，兵庫運河，湊川隧道他）
・2023 年度　奈良周辺土木遺産（旧大仏鉄道廃線跡，奈良市水道関連施設群，旧奈良駅舎）

上記調査結果については，CVV ホームページで見ることができる．

https://cvv.jp/activity_cat/c03/c03-3

図-1　関電第 3 発電所前

図-2　三栖閘門前

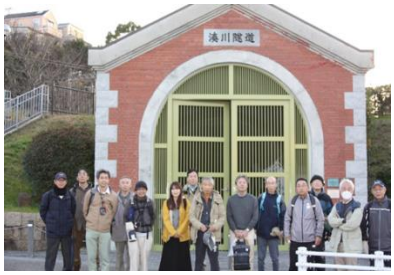

図-3　湊川隧道斜坑坑口前

図-4　奈良市水道高地区配水池前

現地調査で分かったことは，事前にこれらの施設の情報を入手しようとしても，土木学会のサイトから知ることは困難で，学会には選定された当時の資料は保存されておらず，多くはネット情報によらざるを得なかった．

３．選奨土木遺産を活用した先進的な取り組みに関する調査

CVV では，選奨土木遺産に関する現地調査に加え，その土木遺産を様々な目的や方法で活用している土木分野以外の人々の取り組みに着目し，講師に招いてそれら活動について学習した．

この間，地元の湊川隧道に惹かれ，地域住民とともにその魅力を発信し続けている，写真家の前畑温子氏と，元小学校教員で，退職後も地元の琵琶湖疏水の魅力やそれに纏わる人物や歴史を子供たちに伝える活動を実践している，琵琶湖疏水アカデミー代表の小森千賀子氏の２名の方にその活動内容を伺った．

①　湊川隧道を活用した地域活性化や魅力発信の取り組み

Atsushi NANJO, Ryoji IMAOKA, Hideaki KURITA, Fumio SHIMIZU, Takafumi TAKEUCHI,　nanjo1727@gmail.com

前畑温子氏は，J-heritage という NPO 法人の立ち上げに参画し，土木遺産を含む全国の産業遺産の魅力発信に取り組んでいるが，特に地元の湊川隧道については，地域住民とともに公式 WEB サイトによる情報発信，月 2 回の一般公開とミニコンサートの開催などに取り組んでおり，毎回数百名の参加者を集めている．また，最近は，湊川隧道を活用したまち歩きツアーやカフェの開催など，湊川隧道部という街おこしグループを作って盛り上げている．

（https://minatogawa-zuido.com/ , https://minatogawazuido-bu.jp/）

図-5　湊川隧道ミニコンサート

① 琵琶湖疏水を活用した学童用教育教材の開発と実践

小森千賀子氏が代表を務める琵琶湖疏水アカデミーは，琵琶湖疏水について，歴史，地理，環境，文化などの様々な視点から，地域の子供たちの学びを支援する組織であり，京都市内の小学校への訪問授業，学習用教材の作成・貸出，社会見学支援，絵本や書籍の作成・販売など，様々な活動を通じて琵琶湖疏水の普及に努めている．これらの教材は小学生を対象としており，その中には，トンネル施工法やインクライン技術など，土木工学の基礎知識も含まれ，大変充実している．　（https://sosui.main.jp/index.html）

図-6　小森代表と京博士

4．土木学会における選奨土木遺産の活用と課題

土木学会選奨土木遺産は，歴史的土木構造物の保存に資することを目的として 2000 年度から始まった認定制度であり，2023 年度末現在延 517 件の土木施設が認定されているが，その中には既に撤去され，認定を解除された施設もある．ここでは，土木学会における広報活動と見学会など行事の両面から，活用と課題について考察する．

① ホームページ等による広報

土木学会の選奨土木遺産に関する紹介ページとしては，土木学会のトップページにリンクされているページ (https://www.jsce.or.jp/contents/isan/) と，選奨土木遺産選考委員会独自のページ (https://committees.jsce.or.jp/heritage/) がある．一般の会員や市民が日頃目にできるページでは，写真 1 枚と簡単な選定理由のみで，施設の諸元や，文化的，歴史的価値についての記述はほとんど見受けられない．一方，委員会独自のページは検索サイトからしか入れないが，名称，所在地，竣工年，選奨年，選奨理由に加え，関連リンクや沿革，諸元，形式などを記載したパスファインダーと解説シートが用意されている．しかし，こちらも残念なことに，2011 年度以降に選定された施設については空欄となっていて，施設の詳細について知るすべがない．一方各支部においては，中部支部のように独自のページ (https://www.jsce.or.jp/branch/chubu/isan/isan.html) を開設している支部もあり，詳細を知ることができるが，その取り上げ方には差がある．ちなみに関西支部は，現在詳細情報を記載したページを準備中と聞いているが，毎年発刊される支部だよりでは，当該年度に選定された土木遺産の詳細な解説を知ることができる．

② 見学会などへの活用

北海道支部では，選奨土木遺産を積極的に活用し，土木遺産ツアーの開催や土木遺産カードの作成，さらに YouTube (https://www.youtube.com/watch?v=z9ddhVaB5Jg) による動画発信等に取り組んでいる．その他の支部においても一般市民や学生会員を対象に，選奨土木遺産を活用した行事が開催されているが，継続的な取り組みは少ない．

一方，国土交通省の各地方整備局や建設関連の諸団体では，インフラツーリズムの一環として，選奨土木遺産を活用した行事が企画されることがある．

5．まとめ

4 年間にわたり選奨土木遺産の活用について調査してきたが，施設によっては，街おこしや教育教材として活用されているものの，多くは選奨土木遺産であることに気づかず使用されている．また観光資源としての活用も限られていて，所在地すら土木学会のページからはアクセスできないのが現状である．今後インフラツーリズムの対象として有効活用するためには，少なくとも学会のホームページに更なる情報開示の必要性があることが分かった．